婦人衛生雜誌

大正十四年十二月二十日發行

第三百七十九號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第三百七十九號目次

講演

○月經初潮時の注意並に處置に就て　醫學博士 山崎 濤述

叢談

○ふさぎや　醫學博士 淺田 一述

○民族衛生　莊司秋次郎述

育兒

○愛兒の病と死　小寺秋白述

○親の罪　高島平三郎述

○子供の爲の家庭藥局　竹内薫兵述

家庭衛生

○アカギレの療法

○柚子の用途

○丙午の迷信

雜報

○内親王御誕生○東伏見宮妃殿下靈岸小學校へ成せらる○宮内省の細民診療所○モーション孃○のし餅でい

會報

○濱尾子爵薨去○菊池評議員逝去○新潟支會通信○寄附○新入會員

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第三百七十九號
（大正十四年十二月二十日發行）

講演

月經初潮時の注意並に處置に就て

醫學博士　山崎清述

先づ順序として月經と云ふことに就いて述べ、次いで初經時の注意並に處置に及びたいと思ひます。

月經とは女子が思春期に達しますれば、每月一定期の間歇を以て子宮より出血する狀態を云ひます。此れを「月のもの」とも云はれてます。

初經の來潮しますのは普通十四乃至十六歲、早い婦人で十一乃至十三歲、遲きは十七乃至十九でありまして我國の平均は十四歲八ヶ月であります。初經がありましてから二三ヶ月又は半ヶ年位無い事があり、又は不規則を呈し、其後充分成熟してから每月見るやうになる事が普通であります。

月經時の血液は特別の性質を有しまして、液狀にして凝固しません、多少粘液を有しますから粘著性で「アルカリ」性反應を呈し、特有の臭氣を有し、最も烈しい時には血塊を排出することがあります。

出血量は平均九〇乃至二四〇瓦でありまして、時には六〇〇瓦に達することもありますが、初經にては一般に少ない樣であります、其量は各個人の體格、氣質、職業により差異があり、有色人種、南方濕暖地方、都會の人、坐ること多き婦人は多量であります。

月經期間は三乃至五日間で、月經と次の月經との間は二十八日卽ち四週間でありますが、三十日又は二十日の間歇を有する婦人もあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月經來潮の徵候　初經が來潮する時期が近づけば乳房は脹れ、多少痛みを覺えることがあります、膣からは水樣粘液性分泌物が排泄され、生殖器は次第に充血し、出血として外部に排出され、從つて腰痛、局部には牽引する樣な感じを起し、下腹部に壓迫する樣な重い不快な感じを生じ、全身に倦怠を覺え、下肢は疲勞し易く、突然熱く感じ、又は冷く感じ、時には極く僅微の體溫上昇を見たり、屢〻便通、小便の具合が惡く、或は發汗し、多少鼓腸を呈し、胃腸障礙を起すことがあります。

初經來潮に對する環境の影響

初經來潮に對し次の諸項が影響を有します。

(イ)氣候　は初經と密接なる關係があつて、熱帶地方にては平均十一乃至十四歲、溫帶地方は平均十三乃至十六歲でありますが、寒帶地方の婦人は遲れて平均十五乃至十八歲に來潮します、從つて我國の如く北方樺太、北海道地方婦人と南方九州、琉球地方婦人と其中間にある東京地方婦人とは初經來潮の年齡に差異があります、土地の高い所に住む婦人と海岸地方婦人等の地理的關係もあります。

(ロ)人種及び體質　東洋人種の如く有色人種は白色人種より早く、猶太人は「スラブ」種族より早期に現れ、前者は十四乃至十五歲位、後者は十六乃至十七歲位に始まります、體質としては一般に多血性且つ活氣ある婦人は弱い粘液性婦人より早期に來ります。

(ハ)生活、習慣及び社會的位置　も關係を有しまして、上流階級婦人は勞働階級婦人より早く、尚ほ都會の婦人は地方の者より早期であります、例へば佛蘭西巴里婦人平均十四歲六ケ月、小都會婦人は十四歲九ケ月、地方婦人は十四歲十ケ月と云ふことであります。

(ニ)職業的關係　藝妓、娼妓、料理屋の酌婦等の職業的婦人は早期に來ります。

(ホ)遺傳的關係　早期に月經を見たる母を有せる婦人は同樣に初潮が早く來潮します。

早期月經　と申すのは婦人早熟の一徴候として幼年より生殖器より定まつて每四週目に出血する一種の病氣を云ひます、斯くの如き婦人は體重も重く、一見年取つて見え、總ての發育が大人に近くして、性慾は早熟を呈しますが、精神的發達は不充分であります、卽ち六、七歳の女子が十四、五歳に見えるのであります。

早期月經來潮に反し後れて月經の來る婦人があります、卽ち二十歳以後に初經が來潮します、斯くの如き婦人は一般に脂肪性肥滿症、萎黃性血液變化、生活狀態又は職業的變化に因る事が多いのであります。

代償月經　とは子宮、卵巢又は全身の故障の爲め子宮出血の代りに他の器官、鼻、耳、眼、口腔、齒齦、乳腺、肺臟、腦、腸、肛門、痔等より出血することがあります。同樣の意味に於て代償的に下痢を起したり、白帶下又は唾液の分泌增加を起すことがあります。

月經時の注意

月經時には肉體的には以上述べた樣な種々なる變化を起すのでありますが、神經系統及び精神的にもその影響は甚しくして、先天的に神經系統の弱い人、特に不幸なる生活狀態にある婦人、又は急劇なる境遇的變化を受けたる婦人、例之大正十二年九月一日に大震火災に遭遇せし場合に月經が影響を受け、或は先年歐洲戰爭當時獨逸婦人に戰爭無月經を起しました。これは今迄月經の順調であつた婦人が國內に於ける食糧缺亡の爲め榮養障碍に陷り、又は肉體的過勞及び精神的打擊等の爲め月經が止まつたのであります。

初經が來潮するに際し偏頭痛、心窩苦悶、「ヒステリー」、癲癇、舞蹈病、齒痛、躁狂、鬱憂狂等を起し、又はその症狀が增惡することがあります、故に神經的又は精神的に薄弱なる婦人は月經時に當り發作的に心身の異常を呈しまして萬引又は窃盜等の犯罪をなすことは稀れでありません、斯くの如く月經時

には精神的及び肉體的活動力が著しく鈍くなりますから、肉體竝びに腦及び神經系統の休養をはかることが大切であります。

衣服　月經時に於ける衣服及び其附屬品は生殖器に充血を起す傾向を有するもの、又は一般に血行障碍を起し易いものを避けること、卽ち胸部、腹部を緊迫しない樣になすことは大切であります、近頃我國の婦人も椅子に坐ることが多くなりまして敎員、女事務員、電話交換手、芝居及び活動見物等に於ても椅子を用ゐる樣になりました、然るに日本婦人の服裝は皆さん御承知の如く此椅子生活には實に不適當でありまして、外見は溫く見えても、其れは上半身だけのことで、上半身は體溫放散を禦ぐ樣に出來て居りますが、下半身は丸で御話にならない位非衞生的であります、最も從來の日本の習慣としては坐る事の多い時代にはそれで良かつたが、今日の如く椅子に腰かけて仕事をなし、且つ外出多く、婦人が活動的となつた現代に於ては實に不適當であります。從つて下半身に冷寒を覺え、且つ空氣中の塵埃等の爲めに婦人科疾患を起し易く、殊に月經時には宜敷ないのであります、故に私は今日の我國婦人の服裝に對しては下半身保護の爲めに「メリヤス」又は毛絲の股引の如きものをはく必要があると思ひます、此れは衞生上必要である許りでなく風紀上から申しても結構なことと思ひます。

夜具　は餘り重き物は不可にして輕い掛け物を用ゐ、睡眠は八乃至九時間充分に取り、英國の格言の如く「早期に臥牀し、時間正しく離牀すれば健康にして生々となる」、此れは月經時には殊に大切であります、卽ち規則正しき生活をなし、適當の休憩を必要とします。

沐浴　月經時の全身浴、半身浴、冷水浴、海水浴はいけません。

汽車、汽船旅行、乘馬、體操、「テニス」、自働車乘り、殊に社交場裡に出ること、訪問、吉凶の席に列すること等は成る可く避ける樣に致したい、現今

日本婦人社交界に流行して居る「ダンス」は月經時には生殖器に充血を起し、性慾亢進の原因となり婦人病を起す場合が多い、斯くの如き强度の運動は不可ません。

食物　月經中の食物としては成る可く刺戟少い物を選び出血量多き時には珈琲、番茶等を飲み、少量なれば强壯劑を攝取する樣にし度い。一般に貧血且つ痩せたる婦人は脂肪に富める食物(肉類、牛乳、バター)、含水炭素、(野菜、芋類)、果實(葡萄、淋檎、蜜柑)、牛乳等を取る樣にし、貧血性肥滿症にては御馳走多き制合に運動不足である爲めに起り易いから、寧ろ食物を多少制限し、適當に運動せしめ、食事としては重に蛋白質、中等量の含水炭素、少量の脂肪を與へ、水分を制限し、血液の固形成分を豐富ならしめ、「ヘモグロビン」含有量を多くせしめる樣にするのであります。

清潔　月經時には局部を清潔に保つ事は大切でありまして、腟洗滌をせないで殊に腟腔內に紙や、脫脂綿類の插入を避け、唯だ外部にあてる位に止めたい。此れ屢〻紙片、脫脂綿類を入れ忘れ、爲めに其れが腐敗して居る場合があります、故に插入の必要があれば消毒脫脂綿に絲を附け、汚染した時には直ぐ除去する事を忘れてはいけません、局部の清潔を計る爲めに外部を脫脂綿又は微溫湯に付けたる脫脂綿類にて汚物を除去し、西洋に於て用ゐらるゝ海綿類の使用は不可ません。下著の汚染せる時には直ちに交換する必要があります。

適當の月經帶は必要であります、此帶を用ゐる時には右に述べたる注意をよく參考されて清潔なる脫脂綿類をあて、汚れたる時は直ちに交換する樣に致したい。

これを要するに月經時には心身の安靜を計る樣になすと同時に、局部の清潔を計る事が大切であります。

叢談

ふさぎや

醫學博士　淺田一述

一寸お斷をして置かなければなりませんが、玆に「ふさぎや」と題しましたのは全く本誌編輯者の惡戯でありまして、「はしやぎや」の反對の意であります、淺田博士は正しく抑鬱症と題して講ぜられたのであります。實を申しますと、淺田博士が實地醫家に必要なる精神病學に就て講義されました中に、この「はしやぎや」と「ふさぎや」の事がありまして、如何にも善くその全般の狀況から、治療の方針に至るまで述べられて居りますので……と申してはちと失禮の憾も御座いませうかなれど、兎角御婦人に多い樣に云はれて居りまする、所謂「ふさぎや」に就て、その正體の如何なるものであるかを御承知になつて置かるゝことも決して無益ではあるまいと存じました所からして、本々御醫者方の爲に講ぜられたのですから、多少難解の箇所も御座いませうが、大體どなたにも御分りになる事と信じますので、その抑鬱症の處だけを、そのまゝ此處に轉載を許さるゝ樣に御願致したわけであります。（編者）

△内容――定義――記載――A過勞の徵又は抑鬱病の徵、發病終末――B分類：一、尋常の過勞、二、過勞の程度、三、神經衰弱症、四、妄想を合併するもの、五、周期性抑鬱病――診斷：積極的――類症鑑別的、原因的――豫防及治療法

この病氣は精神病學にも神經學にも關係して居り一番治療しにくいものである。

○○定義――抑鬱又は神經衰弱は精神力及び運動力の減退した狀態である。これは躁病の正反對である。躁病と鬱病とは同じ性質であるが徵候が正反對なのである。これは恐らく同じ官能の障碍であらう。

○○○○臨牀的記載――先づ抑鬱病の徵候を掲げ次で分類することとする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

A抑鬱病の徴候──三つの徴候がある。感情の不快、智力減退、筋力減退これである。

筋力減退は運動力を減ずる、判斷力はよく感じた所を説明するに種々の表情を用ひる。病氣の樣に感ずる。からだが重い。身體薄弱、衰弱、絶滅、衰憊、痲痺の感があり、力、意志、勢力、勇氣缺乏し職業に從事する意志もなくなる。患者が意志を表示すべき言葉をよく知らぬ時は疲勞、倦怠、けだるいなどといふが疲勞などとはちがふ。

患者は精神的にも身體的にもすぐに疲れる。疲勞と抑鬱病とは非常に密接なる關係があるが疲勞は二次的である。抑鬱病では横紋筋も滑平筋も侵す。

胃腸を侵す時は消化不良、便祕となり、心臟を侵す時は遲脈、又は速脈となる。

重症即ち昏朦狀態で筋肉を侵す時は不動緘默となる。然し認識力は立派で且つ深い。純粹な抑鬱病では患者が無理をいひ甘へることがある。

考慮が妨げられ觀念の腦裡に於ける活動が少いから行動も減退する。追想が非常に困難で物を考へることが非常に遲い。觀念聯合は困難である。患者は注意をあるものに固定するのに困難を感ずる。追想が時に全く不能になる。これが非常に特有である。患者は觀念の混亂を訴へる、叡智が衰へ頭の中が空虛になつた樣に感じる。腦力が衰へ、物が考へられなくなり、仕事に從事出來ず、監督も出來ぬ。讀み書き計算は不可能か困難かである。智的作用は一寸したことでもすぐ疲れる。認識力、指南力は障碍されぬ。もしその樣なことがあれば思出すことが困難であるからである。知覺がわるくなつたためではない。抑鬱病では例外的にチョイ〳〵意識溷濁することもある。

抑鬱性昏朦狀態では考慮は殆どないかと思はれる、患者は見もし聞きもし且つこの見聞したことを治癒後能く思出すことが出來る、然し話すことも動くことも出來ず一語一音も出す勇氣なく一寸した動作も行ふ元氣がない。言葉も動作も極めて徐々と行

いはれる。

重症でない場合その他の徴候としては頭痛、脊痛、耳鳴、視覺の障碍(これは眼精疲勞性調節不能ではなく、網膜の疲勞し易い現象である)。不眠、生殖器の疲勞し易いことである。抑鬱性昏朦狀態ではこの種々の徴候は不眠を除き餘り著明でない。

發病――抑鬱病の發病は周期性に來るものは忽然として來る。數日又は數時間の間に徴候がひどくなり治るまでその病的狀態をつゞけて居る。傳染病、過勞、身體的又は道德的苦痛から來た抑鬱病は徐々に進み進行性で數週、數月中にひどくなる。

終末――抑鬱病ときまつた病は速に又は徐々に治癒することが多い。ときには慢性の狀態に移行する。數年の經過後治癒するのもある。屢〻不治のことがある。

感情は不快の情調を帶びて居る。後悔、慨嘆、悲哀、將來の不安、心氣性杞憂、憤慨、興奮性等の感又は思ひ疲れし感がある。

妄想として抑鬱性、心氣性、被害性の觀念を懐いて居ることがある。

この第一回の抑鬱性發作が周期性精神病の出發點になることがある。

抑鬱病の分類――一、普通の抑鬱病。二、同上重症。三、Beard氏神經衰弱症。四、忘想性抑鬱病。五、周期性抑鬱病。

一、普通の抑鬱病――普通にもど忘れがある様に普通の生活、生理的にも抑鬱的狀態がある。程度は様々である。例へば「チフス」の様な傳染病又は落馬の様な外傷若しくは後悔、恐怖等の道德的感動の後には普通の人も抑鬱病的になる。かゝるものは高々數週數月で全治する。然しその狀態と周期性に來るものとの間に質に於ても量に於ても經過に於ても轉歸に於ても大した相違がない。病氣そのものは常に同一である。常に重くならんとし、殘らんとし、再發せんとし、合併症を生せんとして居ると思はなければならぬ。

二、程度の差、輕症、中等度症、重症卽ち昏朦狀態の三に區別出來る。是等を特に一々詳しく記載せずとも一般的記載から推測することが出來る筈である。

三、バード氏神經衰弱症は一般神經系統の無力狀態で筋肉の力も精神の力もない。後天的神經衰弱の一種である。身體的、智的及び道德的過勞の結果起ることが多い。例へば小供の「チフス」の介抱に晝夜寢食を忘れて働いた母親が三週間目か四週間目子供が危險區域を脫したと思ふ頃から氣がゆるんでこの抑鬱病にかかり數日數年に亙つて治らぬことがある。學生、工業の技師、商人、勞働者等の過勞も同樣に神經衰弱症に陷る。頭痛、脊痛、不眠、消化不良、便祕、耳鳴、眩暈、眼精疲勞等が訴へられる。治療法は絕對安靜を第一とする、ときに感情興奮性の非常に高まつて居ることがある神經衰弱症には尙ほ憑依妄想、心氣性妄想、感情障碍を伴つて居ることがある。

四、合併症を有する神經衰弱症、屢々不明の負因がある上に抑鬱病が來る。感情が悔恨、不安、興奮性となる。次で心氣性、被害性、抑鬱性妄想が來る。かくして患者は自ら病氣が不治の樣な氣がして益々沈む。心臟はもう打たなくなつた。呼吸するも苦しくなつた、結核になつたと考へる。遂に死を望むに至る。神經衰弱者では屢々自殺をする。或る患者では人が何時も自分を注視して居ると思ふ。人がいつも自分を輕蔑の眼を以て又は嘲笑的に見ると考へる。遂には自分を追跡するものがあると考へる。又自分のこんなに病氣になるのは罪業が深いからであると考へる。嘗てこんな不注意、こんな無茶をやつたなどと思ふ。妄想が漸次系統立てられ遂には不治となる。若い人では早發性癡呆に移行することが多い、このときは抑鬱狀態、妄想狀態次で癡呆といふ順序にかはつて行く、一時的精神溷濁狀態を伴ふことがある。

五、周期性抑鬱病、餘り著明な原因もないのに突

然におこることは周期性躁病と同樣である、一生涯中三、四、十、二十發作も來ることがある、その短いのは數日で終り長いのは數月乃至一年にも及ぶ。治癒も發病同樣突然に來る。なほりかけると速になほる。

周期性抑鬱病は躁病と交互に來ることがある。この兩病型が交互に來るのが一番多い。周期性に抑鬱病のみ來る場合は發作時以外は全く普通の人の通りである。躁鬱二型が交互に來る場合では平素多少躁病的又は鬱憂的である。

躁病と鬱病とは全くかけはなれて居て兩方混亂することはないとはクレペリン氏の考であるが、佛國の學者もこれに贊成して居る。

抑鬱病のみ周期性に來る場合にこれを妄想を伴はざる憂鬱病といふことがある。抑鬱病 Depression といはる場合は悔恨、不安の念慮なくとも抑鬱病の存在することがある。抑鬱病患者が自分の病狀を自

憂鬱病

覺すると悲哀の感、不安の感がおきる、これは自然であつてこの悲哀の感が病氣の基礎ではない即ち悲哀の感は二次的である。續發的である。この抑鬱病患者に憂鬱、心氣性の傾向の生ずるは疑なき所であるがそれは恒常的ではない。周期性抑鬱病での第一の障碍は筋力及び觀念の活動の減退である。烈しき悔恨の念に續いて長い悲哀の感がわくとき、又は葬式の出た後の樣な憂愁の感があつたときにはやはり抑鬱病が起るが、この抑鬱病は二次的に起つたものである、この場合はこれを憂鬱病 Yuutubyô, Melancholie（「メランコリー」獨佛共、英は「メランコリア」）と名づける。憂愁の方が原發で抑鬱病の方が續發である、周期性抑鬱病の患者に悲しいですかと聞けば「ハイ悲しいです」と答へるが、「何故ですか」と問ふと「病氣のためです」といふ。「どんな病氣ですか」と聞けば「衰弱して來た、疲勞に堪へられぬ」等いふから明に兩者は區別出來る。

周期性抑鬱病

一、烈しき悲痛の感(悔恨憤慨)より發病
二、抑鬱病の發生は動機たる悲痛の情に比例して居る
三、原發性感動に關係のある憂愁的な妄想が多少顯著になる
四、徐々に治癒し妄想及衰弱が徐々に消失する
五、再發は稀である

診斷――容易である。精神身體ともに衰弱して居るときにはすぐこの診斷をしてはならぬ。徴候の一が缺如して居ると眞の抑鬱病ではない。筋肉の力の缺乏を主として訴へるものも精神力の缺乏を主として訴へるものもある。神經衰弱になつて間のない人は慢性又は周期性抑鬱病よりも指南力がわるい、因て急性のは檢診しにくい。胃腸性衰弱は容易く診斷出來る。然しこの種の衰弱(消化不良や便祕)は恒存せぬ。頭痛、脊痛、眩暈、不眠は就中過勞による神經衰弱者に特有である。どの點で普通の神經衰弱と周期性鬱病とを分つことが出來るかといふに、その質や量では何も特別な相違がない。唯周期性に再發

一、身心の衰弱により突然に發病
二、衰弱の度は全發作中同じ程度である
三、衰弱の結果社會に於ての自分の地位の破滅などを知つて悲しむ。時には多少妄想らしきものあるも出發點に確なる根據なし
四、發作が迅速になくなる恢復期などなく突發的に治癒する
五、周期性再發

することや、衰弱狀態の期間の長さや誘發し易い合併症やに於て區別し得るだけである。

鬱病の類症鑑別は中々複雜して居る。第一に抑鬱狀態といふのは精神溷濁とは著しく違つて居る。鬱病者は自分の精神症狀は溷濁ではないことをよく知つて居る。その物を見るや數分間よく視線を固定することが出來る。その目は生々として居る。昏迷狀態ではその目は疑ふ樣にぢつと見入る。精神溷濁者の目からは驚愕、失神、迷ひを讀むことが出來る、鬱病者はピクッとも動かないことが多い、屡々グンニャリして氣力がない、精神溷濁者は常にその知覺溷濁のため、興奮する傾を示して居る。鬱病

者では概念が貧弱になつて居り殆ど虚無であることもある。患者は追想、記憶の困難、概念の混亂を訴へるが認識力を失ふことはない。精神溷濁者では認識力が著しく障碍されて居る。精神溷濁者は注意を集中することが出來ぬか又は殆ど不可能である。場所、人物に對する認識力、即ち指南力を缺いて居る。即ち認識力の溷濁があるのであるが本人はそれを氣附かない。鬱病のときは合併症のない單純なものでは幻覺錯覺といふものを持つて居らぬ。精神溷濁のときは屢〻是等の妄覺がある。鬱病者は消化障碍があり便祕を訴へる。精神溷濁者は自發的に胃腸障碍を訴へる樣なことはない。然し屢〻舌苔がある。鬱病者は不安なとき、驚かされたときにのみ運動性興奮を呈するが精神溷濁者は殆ど常にその認識力障碍に歸すべき興奮を呈するが、これはさうしつこいものでない。要之衰弱者又は抑鬱病者の精神溷濁は純にして單なる衰弱に外ならぬのである。癡呆と衰弱又は鬱病との鑑別は容易である。尙ほ類症鑑別上重要なことは患者が單に力が無くなつたと云つたからとて衰弱又は鬱病とするわけに行かぬ。筋力薄弱及び概念の缺乏を證せなければならぬ。神經質の人が唯ボヤッと筋力薄弱を訴へるだけなのは神經衰弱者でない。精神變質者がボヤッと無氣力を示したからとてこれを精神衰弱者と認むることは出來ぬ。實際に刺戟され易く疲れ易いことを確かめなければならぬ。

鬱病者の狀態を緊張病の拒絶症や推感性や常同症や、感情不管性などと誤つてはならぬ。

最後に鬱病狀態は無表情狀態ではない。無表情の方では動いてもさ程疲れぬが鬱病者は疲れ易い。鬱病者は神經刺衝が弱く且つ直に疲れ切つてしまひ、その刺衝による活動も顯著でない、即ち緩慢である。無表情者では體質性神經性素因のためこの活動が緩慢であるが長く繼續され得る。重い物を持上げるなどの力は無表情者と雖も普通の人と同樣に出來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

原因による診斷　周期性鬱病は屢〻躁病と交互に發病する。非周期性のものは一、傳染病卽ち「チフス」、流行性感冒、結核、黴毒、流行性腦炎、腦脊髓膜炎等により、二、物理的原因卽ち腦又は脊髓振盪、頭蓋又は四肢及び軀幹の外傷、過勞、疝痛、臟器痛、分娩等から、三、道義的原因卽ち感動、感激等より、四、その他アジソン氏病、麻痺性癡呆、器質性癡呆、癲癇、慢性腎臟炎等から誘發される。合併症(慢性化、周期性化、譫妄、癡呆化)の診斷は甚だ難しい。これには既往症を詳しくしらべるのが重要である。

豫後及療法　診斷により豫後は樣々である。慢性化、周期性再發、又は種々變型する恐がある。治療の根本方針としては絕對安靜を守らせ病牀に就かしておくのがよい。家族から隔離し病院などに入るのは固より善い。

この病氣は決してにせの病でないから、そんな風に四圍の人が考へて居ればよく云つてきかさねばならぬ。そして本人には必ず治癒することを說き聞かすべきである。然し徒にしつかり元氣を出せ、元氣を出せば治るなどといふのはいい療法ではない却て患者の病を重くする。もしこんな精神療法でなほつたのなら、眞の鬱病でなかつたのである。抑鬱狀態が主でなく副症狀としてあつた場合のみこんな療法で治るのである。持續法も沐浴も患者を疲らすのみで效果は大してない。興奮狀態の鬱病者には持續法が奏效することがある。氣晴しや散步はやはり無效である。藥劑としては次亞燐酸等の强壯劑(燐劑)がよいが、赤酒などはよくない。ヴェロナールは一番よい催眠劑である。これも一週間に二乃至三回以上與へてはいけない。

周期性鬱病又は譫妄性鬱病は入院せしむると却て惡くなることがある。鬱病者は妄覺の有無に關せず最屢〻自殺する。これが治療者として最も警戒せねばならぬ點である。

周圍の人に危害を加へるのは患者が非常にイヽラ立

たされ又は怒らされたときに限る。靜に放任して置けば決して周圍に危害を加へぬ。

民族衛生

莊司秋次郎 述

家庭衛生とか個人衛生乃至公衆衛生と云ふ事は既にどなたも善く御承知の事でありますが。それよりも一段廣い人種衛生或は民族衛生と云ふ事に就ては餘りお考にならぬかの様に思はれます。併しこれは如何なる事を研究の目的とし、如何なる方針に依て、如何なる事を以て理想としてゐるかと云ふことを知て置くことは極めて必要な事であると存じます。それでその概念を得らるべき資料として玆に獨逸のドクトルフェッチェル氏の小論文を飜譯して御紹介致さうと思ふのですが、御承知の如く獨逸は歐洲大戰爭に於ける敗北に由て實に悲慘なる窮況に陷つたのであります。その當時は到底今後容易なことでは腰足も立つまいと思はれた位でありましたが、この理智に富んだ剛健勤勉なる國民は、あらゆる壓迫と窮困の間に於て早くも一兩年こちら再び驚くべき底力を示して凡ての方面に向て隆々と復興の氣勢を現はして參りました。斯様な狀況であるに付けても、同國學者の議論は、ちよつとした事でも身にしみて國家を思ひ、種族の爲に考へる所がある様に思はれます。特に民族衛生と云ふ事は我々日本人も決して等閑に附することの出來ない事で、御婦人方にも篤と考ていたゞかねばならぬ一大事と思ふのであります。譯し方が下手ですから、さぞかし御讀みにくいことゝ存じますが、宜しく御判讀を願ひます。以下はフェッチェル氏の所論で御坐います。

個人衛生は、各個人の爲に出來るだけ佳良の生活要約を作り、社會衛生或は國民衛生は、周圍の條件の變改に由て全國民群の爲に最も都合好き發展可能性を寄與せんとするものでありまして、この兩者

は、已に出來るだけ現在に於てその效果を期せんと努め、これと同時に、その施設方針の效驗を、將來の爲に二次的問題として取扱ふことは同樣であります。然るに民族衞生は、我々の全體の文化が將來の全國民の價値に如何なる影響を及ぼすかと云ふことに觀察點を置いて、その平均的能力を高め得べき道を示さんと努むるものであります。さて一國民の能力と云ふものは、その大部分は、周圍の感化に由ては餘り影響されない遺傳價値に基くものでありますから、將來の種族の能力を高めるのには、有爲なる遺傳素質を有する夫婦の子孫を增して、低格者の產兒數を減らすことにしなければならぬのであります。この民族衞生と申しますのは、人類學上の系統的民族の謂ではありませんので、つまり品質的殖民政策と云ふのと同じ意味合になります。

民族衞生學の理論に於ては、遺傳價値を有する平均子孫數は多くなるか少くなるかと云ふことを論じますが、優良即ち高格と云ふことは、例規として平均以下の子孫數と結付いてゐると云ふことが立證されるのは甚だ遺憾な次第であります、社會的地位に依て、單にその經濟狀態のみならず、大體より見てその遺傳價値も異つて居りまして、種々の遺傳價値を有する兩親から、どんな風に繁殖して行くかと云ふことは、社會的階級の繁殖狀態に依て略〻示されて居ります。英國で一九一三年に、ある調査委員會の取調べた所に據りますと、結婚した男子一千名に付て次の如き產兒數になつて居ります。

上流及び中流の上	一一九
中流の下	一三二
敎育ある勞働者	一五三
無敎育の勞働者	二一三

それで最下層の社會階級が最大の分娩頻度で、社會的階級の高等と看做される程娩產が少なくなつて居ります。これに由て次々の各世代に於て最下層の社會的階級の子孫の率が段々高まつて來なければならぬわけになります。これは獨逸國に於ても殆ど同樣

の現象で、次の表を御覽になればお分かりになります。

プロイセンに於て一九一二年度一配偶に付ての娩產率

將校、高級官吏、自由職業	二・〇
技術的及び商業的素要ある事務員	二・五
工業的素要ある職人、下役等	二・九
工業的素要なき職工、手傳人等	四・一
農夫、日傭人	五・二

國民としての成立を維持する爲には、一組の夫婦から平均三・八の分娩がなければならぬのですが、この數を超過してゐるのは最下等の兩階級だけであります。それで產兒過剩は大部分平均以下の遺傳價値を有して居る夫婦から由來するのであります。ライテル氏はロストックに於て精神薄弱者は、爾餘の住民の平均よりも倍數の小兒を擧げることを證定致しました。低能者の子孫には哺乳兒死亡率は高いが、これはほんの僅か均衡の足しになつて居るに過ぎません。

繁殖上に於ける比較的小なる差も、將來の人種組成上に如何に大なる影響を呈するものであるかと云ふ事は、次の學理的の一例に依て明にされることゝ思ひます。例へば、茲にA及びBと云ふ同じ强さの兩群から成る人口百萬の國民があるとして、各群共每年千人に付き十五人の死亡とし、A群は千人に付き二十の娩產あるに、B群は僅に十の娩產あるものと致します。さうすると此の條件の下に、その國民の組成は次の如くに變化して行くのであります。

	A	B
〇年	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇
一〇年後	五二五六〇〇	四七四四〇〇
二〇　同	五五二六〇〇	四四七〇〇〇
三〇　同	五八〇八〇〇	四一九二〇〇
四〇　同	六一〇六〇〇	三八九四〇〇
五〇　同	六四一九〇〇	三五八一〇〇

六〇年後	六七四八〇〇	三二五二〇〇
七〇　同	七〇九四〇〇	二九〇六〇〇
八〇　同	七四五七〇〇	二五四三〇〇
九〇　同	七八三九〇〇	二一六一〇〇
一〇〇同	八六〇三〇〇	一七五八〇〇
一二〇同	九一〇七〇〇	一三三七〇〇
一三〇同	九五七三〇〇	八九三〇〇
一四〇同	一〇〇七二〇〇	四二七〇〇
		〇〇〇〇〇〇

右の通りで百四十年後にはB群は殆ど絶滅してしまふことになります。我々の遺傳するに足るべき優良の社會階級も全くこれに似寄つた事態になつて居るのであります。故に若し玆に我々が實地的民族衛生、即ち品質的殖民政策を講ずるにあらずんば、將來の種族のみす〱「プロレタリヤ」化するは必然の事であります。

斯樣なわけでありますから、生物學的政策は、最も重大なる現時の要求であります。その方針は害惡の根柢をつかまいて、高等階級の産兒に乏しいと云ふ缺點を除くにあります。これには先づ家族の經濟的改革に由て十分なる小兒數を養育し得る樣にすることで、それは職務的勞作による報酬計測の原則を以て、家族の生物學的能力をして十分なる産兒增加を得るに適する如く顧慮されなければ不可能の事であります。これは勿論國家的施政に俟つ所の事でありますが、尙ほ玆に一つ擧げなければならぬことは、産兒增加は別途の收入をはからねばならぬと云ふ事であります。綜合稅制は同樣根本的に改變されなければなりません。所謂頭割稅法を應用するのであります。家族の課稅さるべき收入は、各〻それに由て生活しなければならぬだけに等分し、その割前は別々に算定するのであります。相續稅にも同一原則を適用するのであります。斯うすれば家族の大小に應じた負擔稅の正當な整理がつくと思ひます。

高等の地位に於ける不十分なる産兒の重要なる原因の一は、晩婚であります。故に長年月の修業を要

する職業に在ても早く結婚することが出來る樣になることに努めなければなりません。これに由て又社會的上層に特に蔓延して居つて、往々不妊の原因となる如き生殖器病の減少をも期することが出來るのであります。

　人爲的產兒制限、就中敎育ある人々の產兒が、その切詰めた生計の下に壓抵されたと云ふことは、大都會の住宅狀態に大部分の罪を歸さなければならぬ。故に土地改善の意味に於ける健全なる住宅及び殖民政策は、民族衛生上重要なる一方策と謂はなければなりません。

　價値ある夫婦の子孫を增殖させようと云ふこの試みと同時に、低格者の小兒數を減少せしむることが必要である。これが爲に我々は、結婚前に健康證明書の取交はしを要求するものであります、但し某々國に於て行はるゝ如く、その內に僅かに一件の低格的子孫を期待し得べしと云ふが如き、多數の配偶を阻止する樣な特別の結婚禁止を希望するわけではありません。尙ほこの方策の效能は低格者を人工的に不妊にするといふ事によりて支持せらるゝ事でありまして、これは數年來若干の有力なる國々に於て獎勵されて居る事であります。實際多數の北アメリカ諸州に於ては既に久しくこの種の民族衛生學的法律が成立して居るのであります。然るにヨーロッパに於ては未だ一國もこの樣な責任ある勇氣を示した國はありません。

　未來の種族の遺傳價値に影響を及ぼし得べき幾多の可能性中より只僅か例として擧げたに過ぎませんが、我々の文化生活の全體に鑑みて將來のために良からざる或は不良の結果を目に見せる樣な何等の仕事も殆ど無いのであります。これによつて見るも民族衛生的精神、生物學的思想は我が國民の指導者にとつては隆盛又は衰頽に向つての前提であります。一國民の最後の運命を決定するものは決して戰爭又は財政のみではありません、實にその生物學的價値何如が勝利と滅亡を定めるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

民族衛生といふものは要するに一種の情意問題で又一種の人生觀であります。これは無意味に自分の運命に任せるといふだらけた厭世觀から自覺的に奮起する事であります。これは樂天觀で未來の發展可能性に對する力強き信仰と申すべきものであります。

育兒

親の罪

高島平三郎述

子供が惡くなるのも、善くなるのも、すべて親に由るといふことは勿論出來ぬ。中には、兩親とも、直接にどうすることも出來ぬやうな、遠い〱前からの遺傳で、子供が自然と善くなつたり、惡くなつたりするのもあらう。又兩親は、出來得る限りの注意を拂ひ、教育に力を盡したに拘はらず、周圍の狀態の爲めに、知らぬ間に子供がいろ〱の影響を受けて思ひも寄らぬ結果を來たすこともあらう。後者の如きは、兩親の注意が一層よく行き屆いたらとも思はれる場合があらうが、併し今日は昔と違つて、親が如何に心を用ゐても、全く周圍を自由に選ぶといふことは、いろ〱の點に於て不可能である。それ故、之を直ちに親の罪に歸することは出來ぬ。

併し、全く「親の因果が子に酬う」といふ諺の如くに子は何も知らずに、親の無學、不注意、不攝生、不品行等の爲めに、子がその結果を受ける事が少くない。人の父母となるものは、少くとも、近世科學の指示する遺傳的事實、生殖細胞の生理病理等に就いて、一通りの知識を有して、自ら警戒せねばならぬ。我國の各地方に、時として、一村落擧つて兒童の生産率が低く、假令生産しても、夭死病弱等の者が多く、又假令生育して學校に入學するに至つ

ても、之を他の町村に比すれば、その能力の平均が明かに劣つて居る者がある。之を調べて見ると、殆んど一世紀も前に、江戸から放浪者が、その山間の村落にやつて來て、そこに落ち著き、純潔にして無智なるその處女に、花柳病を傳染したのが原因で、山間の僻村とて、他村と結婚することが少く、村内で互に結婚する爲めに、次第に病毒が一般に感染し、終に一村の罹病率が、殆んど百分の百といふやうになり、とう／＼それが子供の心身に影響したのであるといふことであつた。何といふ悲慘の事であらう。呉々も、家庭を純潔にして、かゝる忌はしい病毒が、可憐の罪なき子供に害を及ぼすことの無き樣に、せねばならぬ。その根本は、各個人、特に男性の克己、節制の德に待たねばならぬ。道德が衞生や教育の本となることは、之を以ても明である。然るに、道德はその本を家庭に於て養はれることを思へば、家庭に於ける父母の責任も亦大なりといはねばならぬ。

更に、我が國の或る地方には、古來多量に飲酒する習慣があり、之が爲めにその村落の學校兒童は、心身ともに他の學校兒童に劣る實例がある。而かもその飲酒の習慣が、昔その土地を領有せる大名の寛大なる心より、少し強い風が吹くとか、霖雨が續いたとかいへば、容易に年貢を負けてやつた爲めに、農民はその餘裕を善用せずして、飲酒に用ゐ、終にかかる惡風習を馴致するに至つたのであるといふことである。是れ即ち親の飲酒が、子供の心身に及ぼす恐るべき事實を證明して居るものといふてよい。一般の家庭に於ても、少くとも、生兒能力の旺盛な頃の父母たるべき男女は、飲酒を愼むやうにせねばならぬと思ふ。立派な人物にして、その子が種々の精神異常として、悲慘な狀態にある者は、その父母の雙方、又は一方の飲酒の爲めなることが少なくない。是れ亦、前の花柳病の場合と同じやうに、親が一時の自己の慾情を制せぬ爲めに起る結果であることを思へば、節制の德の如何に大切であるかを考へ

ざるを得ぬ、家庭は何時も純潔を保ち、花柳病と「アルコホル」との爲めに、各自の生殖細胞を害せられぬやうに注意せねばならぬ。親の一時の罪過が、子孫永久の不幸の基礎となることを思ふ時、親たる者は、慄然として自らを警めねばならぬ。

愛兒の病と死

小寺秋白述

「白銀も黄金も珠も何せんに勝れる寶子にしかめやも」吾が子程可愛ものはない、從てそれが病氣にでもなれば、これ程心配なものはない、況やそれが不幸にして死んだとなつては、實に身も世もない、これは實際その目に逢つた人でなければ、到底想像に餘る人間の眞情である。左に掲ぐるのは、余の親友で兒童學專攻の博士が自分の實際に氣の毒に感じた一例をそのまゝに敍述して余に示されたものである。依て今それを茲に掲げ、聊か駄評を加へて世の親たる人々に警告する次第である。

五歳になつた可愛い男の子が一朝死んだ。父と母とは狂ふばかりの苦みを嘗めた。淋しい幾月を泣いて暮して居たが其中に妻は懐妊した。待ち遠いお産の日も近いた。やがて生れた子は玉のやうな男であつた。父と母とは無上の喜びを感じ再び幸福の人となつた。これは定めし亡くなつた子の生れ變つたのであらうと言つて喜び合つた。

最愛の一粒種ゆゑ、この子計りはいかなることがあつても無事で育てなければならぬとて、花咲き戯ふ春の日も、木枯吹く冬の日も養護の注意を怠らなかつた。斯くて二郎は五つの春秋を迎へた。

四歳の時に一度病を得たことがあつた。父は上京中であつたので、宅から急報が行つた。父の驚きは一方ならず要務を帶びて滯京中であつたが、迚も仕事の手に著く筈もなく、次の急行で阪神住吉の宅へ急いだ。常ならば十數時間で著ける距離ではあるが、この時ばかりは汽車の歩み牛より遲き心地して、自烈度きこと限なく今頃は二郎の病勢如何にかあらむと、彼かと思ひ、此かと察して、身

は車中に居ながら魂は飛んで二郎の病室に入つて居る。あまりの心苦しさに車中から「二郎殺すな萬金を盡せ」と電報打つた。それでもまだ安心が出來ないので今度は又「二郎の容態車中へしらせ」と打電した。車中で新聞見ても雜誌見ても少しも頭に這入らない。歩いて見る。それでも不安でたまらぬ。食堂に這入て食事を取つたが、それもほんの名ばかりで食事はまづい、酒に鬱を晴さんとしてもその甲斐が無い。食堂出でゝ歸る途にボーイに追はれて、聞けば堪定間違へて拂つて居た、飛んだ失策も矢張り子を思ふための頭の混亂である。

車中まで容態知らせと打電したその返電のないのを見れば二郎の壽命はなかつたのか、まさか左樣のことはあるまい。殺してたまるか、死なれてたまるか。天にも地にもかけ換なき最愛の子である。我が生命に換へても育てねばならぬ子である。天道も我等のこゝろはよく見そなはすに違ひない。神もそれほど冷淡ではない筈だ。我等兩親の心中は佛に通はぬ筈はない。滊車よ早く走れ、休まず走れ、そして早く梅田驛へ著け。そこには家の使が來て居る筈だ。すべて物事は案じるより生むが安い。要らぬ心配は無用だ。家へ歸れば何れ數日は夜を通して看護をしなければなるまい。せめて車中で少しでも眠つて置きたい。横になつても眠られぬ。魂は遠くに飛んで、唯あれかこれかと想像ばかりして居る。

二郎の顏が自分の眼の前に移る。何故俄かにそんなに痩せたのであらう。福々した頰の肉がないのではないか、眼は凹んで光もなければ力もない。あまりの事に手で二郎の顏を撫でて見ると、コハ如何に、頰は冷え切つて最早血は通つて居ない。

思はず夢を見て居た。悪い夢であつた。夢は逆夢と言ふから、悪い夢が善いのであらう。それにしても滊車は今日に限つて何故こんなに遲いのであらう。平常に變らず走つて居ると言ふが、自分にはどうしてもそれが信じられない。も一つ電報を打つて置かう「二郎死なすな、一命とりとめよ」

それでも自分が宅へ著いた時に二郎が實際眠つてしまつて居たら、自己はどうしたらよいのか。長子一郎を亡くした時の苦みを顧ると最早それを繰返して經驗する勇氣はない。勇氣はあつても死ぬる方が餘程樂だ。然り死ぬのが最も良策だ。これに優る方法は無い。亡き子の傍に行くことが自分の最も大きな樂だ。この樂の前には浮世

の生活を捨てることを否まぬ。そうだ、死だ。死は萬事を解決して呉れる。死はあり難い。死は生命だ。死は極樂だ。自分のとるべき道は唯死あるのみだ。

然り、死は既に決した。次は何處でその目的を達すべきかこれが又問題だ。家か、山か、海か、河か、待てよ、それは如何して死ぬるかの問題と相關聯して居る。つまり何處で、如何して死ぬるかゞ問題だ。自分にはわからない。これは家へ歸るまでに解決して置かなければならぬ問題だ。苦しくても決定して置かねばならぬ。若き日には活くべきために戀に苦んだが今は死ぬべきために手段に苦むのだ。活くべきために苦んだものは又死ぬるために苦まねばならないのだ。亡き子の跡を追つて死ぬるのは自分の宿命だ。

想像に想像を重ね、煩悶に煩悶を重ねて居る間に滊車はとう／＼梅田驛の構内へ走せて來た。家からの使は居た。二郎は重病ではあるが、落ついて居ると言ふことであつた。

數日間は徹宵して看護をしたが、幸に二郎は全快して兩親の膝へ交る／＼抱かれるやうになつた。或夕二郎の父は二郎の母に對して、二郎の病氣の急報に接して歸る滊車中で、二郎が亡くなつて居たら自分も死ぬる覺悟であつたと笑ひながら話をした。すると母も亦矢張り同じ考であつたと告白した。あゝ言ふ電報を受けて二郎が死んだら自分も申譯に死ぬる外途がないと思つたからだと附言した。

それから丁度一年經つた或秋の夜、一時ごろ俄かに二郎の様子が變になつた、熱も出た、元氣も俄かに衰へた。夜中のことではあるし、醫師も不便であるし、心配しながら手當をしながら夜は明けた。醫者が來た。診察の結果は近頃流行の疫痢だと言ふことである。病勢は刻々に增して行く、脈も性質が悪いし、熱も高くなる。元氣は見る間にだん／＼衰へ行く。兩親は物憂はし氣に一生懸命看護をする。醫師もつき切りにして病勢を見て居る。刻々の容態に對してそれに適當の處置をする。何をして見ても一向その效果が見えない。病氣は益々重くなる一方である。その日の夕六時になつてとうとう二郎は五歳を一期とし息を引取つてしまつた。發病後僅に十八時間であつた。

思へば去年の秋、二郎の父と母とは死まで決心したが幸にそれも濟んで居た。今は正しく死ぬべき時だ生きては

居られぬと泣き乍ら二郎を野邊に送つて葬式をすませた。

兩親はあまりのことに胸痛み、頭重くて二人とも床上の人になつてしまつた。時々大きな聲を擧げて二郎のことを叫ぶのである。三個月を過ぎて後もまだ兩親とも半病人である。四個月經れども五個月經れども亡き子を思ふこゝろは更に變らない。たまたま惱める身を瀛車に搭じて外出すれば過つて乘越をして見たり、電車に乘ると反對の方角へ行つたりする。他人の子供が嬉しげに戯れて居るのを見ると何故自分の子が死なねばならない運命を持つて居たのか。他人と話をして居る時にも思はず急に針で刺されるやうに子供のことが胸に浮んで來て、全身にそれが響く。この苦痛は迚も明に言ひ表はすことは出來ない。苦みを和らげ悲みをかくさんとこのみこれ勉めて居る。けれども時には勃然として亡き子を思ふ情が湧いて來る。古歌に『人知れず物思ふ折もありしかど子の事ばかり悲しきはなし』とある自分のために詠まれたものゝやうに響くのである。母も亦同じことを經驗して居る。家に居て考へる機會が多いためでもあらう。近頃は段々それが募つて時々妙なことを口走る。向ふに見ゆるのは一郎と二郎だ。二人が手を引き合つて、母さんと言つて走つて居る。そら一郎も二郎も笑て居る。又お母さんと言つた。段々近く走つて來た。そら來た。私の袂を二人でしつかり握つて居る。そんなにしなくともお母さんは逃げはせぬよなどゝ言つて居る。

或時は二階から屋根に出でて一郎や二郎のことを叫びながら夜を更かしたりする。子を亡ひし母の苦みがあまりに酷に見えて迚も傍に居ることが出來ない。苦みを殺して居る夫を見ては同情が少い、二郎を思ふ心が薄いと不足を言ふのである。行末力と頼む最愛の子に別れては最早用事のない身である。又いつまで經つても懷妊せぬ身である。斯くては我が夫は終生子なくして淋しい人生を送らねばならない。自分としてはそれがまことに相濟まぬやうに思ふ。いつそ今の間に自分は家を離れて尼寺に餘生を送るから、夫は新妻を迎へて再び愛兒を膝に抱く父となつてほしい。自分として夫に盡す最後の愛であらう。永く事へても我が夫に子供を持つ幸福を與へることは出來ない。妻として夫に濟まぬ思ひがする。夫に對して氣の毒に堪えられぬ。自分も亦子を抱く喜びを持つことが出來ないのならば去つて尼寺の生活を續けて餘生

を送りたい。夫は若い妻を得て子を得る喜びに樂しむことが出來る。これが夫を愛する一つの手段ではあるまいか。繰返して思ふのが自分の迷か、それとも正しい道か。誰がこれを解決して與れるのであらう。

＊　＊　＊　＊

（追記。これは子を失ひし苦みと悲みに人世の最大悲慘を嘗めて居る一の實例である。コドモの養護は轉ばぬ先きに杖をつくことである）。

私は右の如き親たる人の心情に向て敢て批評を加ふるに忍びない。只此等の場合に當て古賢の諭されたる一二の名言を拈提して、方今の恐父癡母を覺悟せしめ、姑息怯懦諂曲の社會敎育者輩に向てこの惡水を驀頭に注ぎくれんとするに過ぎない。

王陽明の弟子の陸澄が鴻臚寺に在て倉居せる際、忽ち家信至て、兒の病危なるを告げた。そこで澄先生も心甚憂悶して堪ふること能はずと云ふ有樣であつた。その時王陽明先生は、この有樣を氣の毒に思はれて次の如く諭し慰められたと云ふことである。

此時正に宜しく功を用ふべきなり、若し此時にして放過せば、閑時の講學何の用ぞ、人正に此等の時に在て磨練せんことを要す、父の子を愛する、自ら是れ至情なり、然れども天理亦自ら箇の中和の處あり、過れば卽ち是れ私意なり、人此處に於て多く認めて天理當に愛すべしと做し、則ち一向に憂苦す、已に是れ憂患する所あれば其正を得ざるを知らざるなり、大抵七情の感ずる所、只是れ過ぎて、及ばざるもの少し、才に過れば便ち心の本體に非ず、必ず須らく調停適中して始めて得べし、就ち父母の喪の如き、人の子豈一哭して便ち死して方に心に快きことを欲せざらんや、然れども卻て曰く、毀て性を滅せざれと、聖人強ひて之を制するに非るなり、天理の本體、自ら分限ありて、過ぐべからざるなり、人但心體自然に分毫を增減し得ざるを識得するを要す。

なんと近頃の樣に精神の修養を等閑にして徒らに愛兒の乳養と痾屎送尿とのみに齷齪たる者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の恥づべき訓戒ではあるまいか。

更に羅馬の賢哲エピクテートの訓言に聽け。

心せよ、汝の心に伺とべる所のもの、汝に利益を與ふる所のもの、汝の心が傾向する所のもの等の總てに對して、常に汝の心に言へ、『こは元來何ものぞや』と、而して此の自問をなす習慣を些々たるものに對して爲し始めよ、汝若し酒杯を愛好なるならば、汝自ら言へ『我は酒杯なるものを愛するなり』と、然らばその酒杯の碎くることあらんも、汝は心を取り亂さゞるべきなり。汝若し汝の子若しくは汝の妻を愛するならば、汝自ら言へ『我は人なるものを愛するなり』と、然らば彼死するとも、汝は心を取り亂さゞるべし。

なんとその物の本性を知らず若しくは忘却して愛溺し、その本性の如實に現はるゝに至て初めて狼狽慟哭するは賢と謂ふべけんや、又正當となすを得べけんや。

――エピクテートは同情の何たるかに就て更に敎へて曰く

遠國に滯在せる子の爲に、或は財產の損亡の爲に悲しみ泣くの人を見なば『あゝ何ぼう不幸なる人かな』てふ觀念に捲き込まれざる樣注意せよ、否斯かる觀念に捲き込まるべきにあらず、却てその剎那、汝は直ちに心中に鋭く分別して立處に答解を有せざるべからず『出來せしこと、此人を苦しむるにあらず、何となれば、斯かることは他の人をも苦しむるものにあらざればなり、眞に彼を苦しむるものは彼の觀念なり』と、その觀念は知るに由なけれども、只その言葉を聽くのみにても猶豫なく彼の悲しみに同情を表せよ、又他意なくば彼と共に嘆息するも可なり、然れどもこの嘆息をして汝の衷心に反響を生せしむるは不可なり。

この言固より嚴勵に過ぐるの慊なきにあらざれども、是亦如實の知見なり。世の怯懦にして阿諛諂曲を事とする敎育者輩の同情に勝ること萬々ならずや。

小供の爲の家庭藥局

醫學博士 竹内薫兵述

家庭に常に備へつけて置いて、子供が病氣にかゝつた時、醫治を受けるまでに用ゐる、簡單な藥や器械の事を心得て置くのも必要である。之については大略左の藥品や機械を備へて置くがよい。

一、沃度「チンキ」

藥舗に賣つてゐるのは、日本藥局方によつたものであるが、之を「アルコール」で倍にうすめて用ゐてもよい。劇藥であるから決して飮んではならぬ。必ず塗布のである。創をこしらへた時、棘を刺した時などに之を用ゐる。創の時は取り敢へず血の出る部の周圍の皮膚へ筆で廣く塗り、創へは「ガーゼ」を五六枚あて、繃帶をする。それから醫治を受けるのである。棘のさゝつた時は、それを拔いて、そのあとへ沃度「チンキ」を塗り、矢張り「ガーゼ」をあて、繃帶をする。始めから膏藥を塗る事は禁物である。

二、吸入器

咳の出る時、痰の出る時などに用ゐる。聲の嗄れた時も用ゐてよし。使用法は、この器械を賣つてる所で聞くがよい。之に用ゐる藥は種々ある。しかし重曹食鹽水は幼い子供には眼や皮膚を刺戟してよろしくない。輕い時、臨時に用ゐる時は、普通の微溫湯でよろしい。又うすい硼酸水でもよい。之以上は醫師の處方に從はねばならぬ。回數や分量は病氣や場合により種々である。

三、ひまし油（「リチネ」ともいふ）

専ら下劑である。子供の通じの遠い時、急に熱の出て下痢のある時、疫痢の樣な時、まづ此藥を服ませる。なるべく多く、一度に十「グラム」以上、二十「グラム」位まで砂糖水の上に浮かして飮ませる。吐いたら又もう一度飮ませるもよいが、なるべく早く醫師の診察を受けるがよい。之は多くても飮み過ぎたと云ふ憂がないから分量は心配しなくともよい。

四、灌腸器、灌腸藥

「ガラス」製の筒の樣な器である。五「グラム」、十「グラム」、二十「グラム」と三通り位あるが、子供のは十「グラム」ので澤山である。この中へ普通は「グリセリン」と水を等分に合はせたものを一回に五「グラム」又は十「グラム」吸ひ上げて肛門へ注入する。灌腸器の尖へは「ワゼリン」を塗つて入れないと痛

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

む。そして五分か十分間肛門を指で押してゐると多少の腹痛が起つて、大便が出る。浣腸は何度繰り返しても害はない。

五、硼酸軟膏

擦過創や、發疹へ塗る。火傷の時は「ガーゼ」か「リント」へ之を塗つて、それを火傷した場所へあて、其上から繃帶をする。

六、絆創膏

小さい創で、少し血の滲んだ位なれば絆創膏を貼つて置くがよい。

七、脫脂綿

創へ直接に當てるのはよくない。直接には「ガーゼ」を用ゐる。「ガーゼ」の上から脫脂綿を用ゐる。

八、「ガーゼ」

九、繃帶

十、氷囊

十一、氷枕

氷枕や氷囊は中へ氷や水を入れて冷やす道具であることゝ勿論であるが、頭又は心臓部、其他當てる場所は種々である。然し惡寒、戰慄の時には控へたがよい。

十二、油紙又「アマニン」油紙

繃帶をする時、創から血や膿が外へ滲み出さないために用ゐる。「ガーゼ」の上へあて、其上から繃帶する。

十三、「リント」

十四、「コップ」

十五、「メートルグラス」

液體の分量を測る時、何「グラム」といふから、それを測るものです。又子供に乳をやる場合にも何「グラム」といふから、百「グラム」か二百「グラム」の「メートルグラス」を具へて置く必要がある。

十六、胸部濕布帶

「プリスニッツ」罨法の道具である。氣管枝炎の時など、胸部へ濕布を施す時の道具である。方法や使用法は別にお話する。

十七、檢溫器

子供に用ゐるのは一分間以內で判るもの、振らなければ下らないもの卽ち留點檢溫器がよい。「ジール」、「キング」などの名のあるのは上等である。丈夫なのは五分間以上十分もかゝつて檢するのである。この方は價格も安い。

まだ掲げれば種々あるが、以上で大體間に合ふ。之を一つの函に納めて汚くならない樣にして置くがよい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭衛生

「アカギレ」の療法

云ふまでもなく「アカギレ」や「シモヤケ」は冬季水仕事をするものに來る頗る頑固な疾患で、看護婦諸姉などのよく冒されて困るものであります。私は藥物を用ひないで以下述べるやうな方法で良果を收めて居ります。即ち單に「アカギレ」の部分を湯につけ、之を下から熱して堪へ得る限りの温度とし、(攝氏四五十度)數分間熱いのを辛抱せしめるのです。次に之を取り出し「アカギレ」ならば表皮の固い部分を截り去り、再び同樣に熱湯浴をやります唯これ丈でよろしい、數回の操作で必ず治ります。これは醫學博士金森義雄先生のお說であります。

柚子の用途

柚子は他の果物とちがつて、主としてその皮を珍重するのですから、從てその利用法も趣味があります。之に就てある新聞に左の如きお話がのつて居りました。

柑橘類は種類が極めて多いけれども、その多くは皮をむいた中の實を用ひるので、皮を珍重するものは先づユズ位のものです、歐米ではレモンを輪切りにしてそのまゝ紅茶に入れたり、ビフテキやカツレツに添へて皮ごと食べる風があります、皮を食べることゝ、酸味の强いことゝ香氣の高いことにおいて、ユズとレモンは相似て居り、たゞその香味がちがふだけです。

その香味が珍重せられて、種々の料理用に用ひらるゝことは人々の知るところですが、すべて柑橘類の皮は、古くから醫療的效果あるものとせられ、現にミカンの皮の乾燥したものは漢藥の一つとなつて

居る位で、解熱や、利尿の效あるものとせられ、一種の興奮的作用があり、感冒などに用ひて效多きものです、從つて、ユズなどの如き皮ごと用ひて香味雅良なるものは常に用ゐて健康上極めて有效なものといふことが出來ます。

我國で古くから年々冬至にユズ湯をして入浴するといふ風習は相當意味のあることで、それに入浴するのは、先づ入浴していゝ氣持になつてユズの佳香に接することは精神の爽快を來すと同時に、生理上有效なことゝ思はれます。

ユズは、その皮を輪切にして味噌汁その他種々の吸ひ物に香味料として用ひてよろしく、あるひはオロシとして、コシ味噌とねり合して、いはゆるユズ味噌としてもよろしく、ウニなどにねり合してもよく更にまたそれを輪切りにして蜂蜜の中にひたして貯藏しておくと、ユズの佳香と酸味とが蜂蜜の中に溶出していふべからざる佳香雅味のものを得ることが出來ます。

丙午の迷信

今年二十歳の娘さんは、例の丙午と云ふ馬鹿げた惡迷信から、その嫁入を妨げられ種々の悲劇を生じて居ります。もとより人間には幾多不可解の事はありますが、それはその時代の文化の進歩と共に可解の事になつて來る、今日地震の原因を鯰に歸する人も無からうし、雷鳴を鬼が叩く太皷の響と信ずる人もありますまい、然るに鯰や太皷よりも、もそつと辻褄の合はない歲月の呼聲などに由て人間の運命を左右され、自ら左右せしむるなどは、この二十世紀にあつて實に哀れむべき苦々しき習俗であります。斯樣な愚昧な迷信俗說は一刻も早く日本から掃除けなければなりません。これに就て文部省社會敎育課の川上氏も左の如く語られたと云ふことです。

『どうも下らない迷信があつて困ります。イワシの頭を信仰するなどはまア罪のない方ですか、丙午に關する迷信の如きは一方社會を害すると共に、こ

の迷信のために若い女性があたら命を捨たり、社會の侮蔑をきらつて陰慘な心の痛手を胸に懐いて世をのろう様なことになればこれは見逃し難い大きな社會問題でもあります、元來迷信は野蠻國に多い。文化の進んだ國程迷信が少いのであります。

昔アメリカインデイアンが月を神と信じてゐた、スペイン人はこのインデイアンを征伐する時、この印度人の迷信を利用して暗夜に乘じ大きな風船の中に火を點じて、インデイアン勢の上空に飛ばして戰ひに勝つたといふ話しがあります、とにかく文化の進まない國にはお話しにならぬ程の迷信がいくらもあります、わが國でも丙午の外に、やれ友引だの酉だの申だのといつて實に馬鹿氣きつた迷信が澤山あり、しかも、この迷信が知識階級の人々にまでしみ込んで居るといふことは誠に不可解なことである。

又同じく此事を慨歎して居らるゝ三輪田元道先生も次の如く話された趣であります。

丙午の迷信は無論干支から來たものである、干支そのものは一種の假定であるから絕對的に何等の根柢もないことである、實際丙午は天文的に特殊な現象があるのでなく、人間が勝手に歲月を計る數量の符號に動物の名を以てしたのに過ぎない。それ故絕對的に丙午を忌みきらう理由はない、若しこれを疑ふものがあれば今日は火曜日だから火事があらう、水曜日だから雨降りだらう、金曜日だから金がもうからうといふ者があつたとするも何と判斷するか、七曜は矢張り日數を計算する一種の符號に過ぎないのである、丙午の名稱もこれと同樣だ、十二支の名前は凡て動物だが、これに代ふるに植物の名を以てせばどんなものか、午の代りに櫻とせば却つて陽氣なものとなるではないか、また、東洋人にとつて丙午の影響が現はれ、西洋人にとつて何等の影響がないとすれば、そのこと自身が眞理でないことを表明するものである。要するに丙午の迷信は何等の根據もないことである、自己が勝手に丙午と稱する符號を歲月につけその年に生れた人を精神的に苦しめ

るのは昔行はれた人柱以上の罪惡である。

尚ほ生活改善同盟會でも、この理由なき迷信打破の爲に、丙午の忌むべき理由なく、又必しも不緣ならざりし實例を蒐めて居るが、その調査した材料中に、丙午年で人に嫁し、長壽を保ち、家名を揚げた數々の貴婦人、賢婦人がある、今その二三例を擧げて見れば、石黒忠悳子夫人くか子、故森村市左衞門男夫人きく子、文學博士星野恒氏夫人きん子、文學博士法學博士加藤弘之氏夫人壽々子、近江屋吳服店中井長兵衞氏夫人ふな子等、何れも賢婦人の聞えある人々が多い。

雜報

○內親王の御誕生

本月六日左の如く、內親王御誕生の告示ありたり。

【宮內省告示第二十九號】　皇太子妃殿下本日午後八時十分東宮假御所に於て御分娩內親王御誕生あらせらる。

大正十四年十二月六日　　宮內大臣　一木喜德郎

眞にこれ國民翹望の大慶幸、畏み〳〵もことほぎまつる。

○東伏見宮妃殿下靈岸小學校へ成らせらる

平素より貧兒病兒不良兒等を顧念せられつゝある東伏見宮妃殿下には本月一日深川の靈岸小學校を訪れたまひ親しく敎育狀況を御觀察あらせられたる

が同校々長椎名龍徳氏は、この光榮に感激し左の如く語りたる由なり。

同氏は、感激の面を輝かせつゝ、「實に光榮の極みです、大妃殿下には深く貧民教育に御心を止めさせられ不良の子供、病弱の生徒について行き屆いた御下問がありましたが私が卒業生の發展の態を申し上げましたら、大層御滿足の樣に拜されました」と。

なほ大妃殿下にはお菓子料を下され、學校よりは生徒製作品を獻上した。

本會々員は此の如き崇高仁慈の業にいそしまるゝ大妃殿下を總裁と仰げるを光榮とし歡喜とするものである。

○モーション孃

二十五歲の若き身を以て熊本癩病療養院長リデル孃の補佐として來朝したモーション孃は、往訪の新聞記者に對して左の如く話したと云ふ。

私はカナダのサスカセワン州デザイナ市の社會課に勤めて救貧事業その他の慈善事業にたづさはつてゐた經驗からして病氣その他の不幸に惱む人々に對する同情心が次第につのり何時かは自分の力で惱み苦しむ人々を救つてやりたいと朝夕神に祈つて時機の至るを待つてゐました熊本のリデルさんが知らぬ國に渡つてその一生を恐ろしい癩病患者のために捧げておられるその犠牲的精神に感奮し進んでその人の祕書役として參つた次第であります、契約は三ケ年となつてゐますが私はモウ身心ともに日本人に捧げておりますから一生を日本で送るつもりです。

虚榮心や好奇心で出來る仕事でない。

○のし餅でい

東京日々新聞社の後援にて都下十六佛教婦人團體の「のし餅でい」は六日日曜日朝から千餘名の婦人女學生團が市内三十三ケ所にはなばなしく出動したが來る人も來る人も心よく寄付するので午後三時半までに二千七百餘圓に達しこれに淑德高女の分を合せると約三千圓で第一日は大成功であつたが義金は二十日まで受付けることになつた。

近來佛教徒も耶蘇教徒に倣つて漸く活きた働をする樣になつて來たことは悅ぶべきことである。

○宮内省の細民診療

宮内省の細民診療所は本月十一日より二十五日まで(午後四時より八時まで)左記五ケ所に内科、外科、小兒科、眼科の宮内省侍醫寮臨時診療所を開設することに決定した。

府下大井町隣保館△本所太平町善隣館△府下日暮里第三小學校△同三河島本願寺託兒所△深川猿江町婦人宿泊所

なほ無料診療劵の交付は從來の市當局及び警察官の外に各小學校長をして配布せしめると。

會報

○濱尾子爵薨去

本會副會頭の夫君とます樞密院議長東京帝國大學名譽教授從一位勳一等濱尾子爵はや、如何さまに思ほしけむか、去ぬる九月二十五日といふに、紅葉ばの未だ過ぎぬに、とみにも神去りましぬ、あはれ此の命がありし世に、如何ばかり本會の爲を思ほして御力そへたまひけむ、そこ故に本會は茲に畏み〳〵も誄たゝへまつる。

大正十四年　私立大日本婦人衞生會

○菊池評議員逝去

あはれ〳〵本會評議員とましゝ菊地みね子刀自はや、腑臓炎のみいたづきに去ぬる十月五日遂にみまかり給ひぬ。茲に本會は刀自が御功をしぬび、深き哀の意をたゝへまつる。

大正十四年　私立大日本婦人衞生會

○新潟支會通信

新潟支會の會員諸姉は益々衞生思想の重要なるを思ひその普及發達に努めらるゝと同時に一般體育の爲に諸種の運動設備をなし七月十日より八月三十一日に至る五十日間濱浦海岸に海水溫浴場を開設し三萬餘人の浴客を得たる等盛に活動せられつゝある由通信ありたり。

○寄附

金五十圓也

故濱尾子爵五十日祭に當り同家より本會に寄附せらる。

○新入會者

特別會員　原田　たま子
（右紹介者關ヤス子）

特別會員　大久保スヾ子
同　戸所　タカ子
同　兒戸　タミ子
同　中村　延子
（右紹介者中村シゲ子）

通常會員　福原　ツチ子
同　青木ミツエ子
同　櫻田キクノ子
（右紹介者中村シゲ子）

通常會員　逸見　キク子
（右紹介者布川イチ子）

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮大妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　子爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

理事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山口眞子
同　三浦敎子
評議員　入澤常子
同　服部繁子
同　子爵母堂　仁禮壽賀子
同　緒方悦子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　丹波貞子
同　中濱芳子
同　子爵母堂　松井正子
同　近藤憲子
同　男爵母堂　青山孝子
同　菊地米子
同　三宅藤子
同　瀬川さわ子

同　長谷川仲子
同　高木鐐子
同　天野多喜子
同　羽田三緒子
同　原光子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　加藤鈴子
同　男爵母堂　吉岡彌生子
同　高橋孝子
同　松平芳子
同　男爵夫人　古市幸子
同　相磯まさ子
同　岸澄子
同　宮本樂子
同　守屋千代子

大正十四年十二月十七日印刷
大正十四年十二月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　柴山則常
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　合資會社　杏林舍

發行所　東京市本郷區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同　市銀座三丁目　東海堂
同　市京橋區鎗屋町　亘明堂
同　市本郷區龍岡町　南江堂支店
同　市芝區愛宕町　明文館
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京京橋元數寄屋町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

陣痛催進劑
ピツイトリン

ピツイトリンの產婦人科領域に於ける聲價は眞に隆々たり。之蓋、本品は子宮に作用して之を收縮せしめ、而も他の子宮緊縮藥に於けるが如く、其性質强直性ならず、〇・五乃至一・〇ccの注射により、能く速に陣痛强盛を來して、產期を短縮せしむる效果、顯著確實なればなり。

ピツイトリンは又强心、止血、利尿の作用ありて種々なる內科的疾患に試みられつゝあり。

【文獻あり御申越次第進呈す】

玻璃球一cc入
三管並箱

姙娠惡阻特效藥
ユゴール

ユゴールはドクトル飯田左三先生の發見せられたる惡阻の治療藥にして、多數實驗家の臨牀成績は姙娠惡阻に對し、顯著確實の奏效を示したるのみならず一般諸種の嘔吐患者に對しても亦用ふるに足る藥劑なるを明にせり、而してユゴールは些の副作用なく、之れが應用は何等の不安、何等の顧慮をも要せずと稱せらる。

【文獻御申越次第進呈】

◆賣品種類◆

注射用ユゴール
一cc玻璃球十管入

內用ユゴール
膠球(〇・三瓦)五十粒入
同百球入

本社　東京室町
發賣元　三共株式會社
出張所　大阪淡路町　臺北府後街